

## 宮崎 文彦 講師

## 【みやざき ふみひこ】

専門は、政治理論・行政学/公共哲学。哲学や思想と現実の政策をどうやって結びつけるか、といったことを考えています。とともに音楽をはじめとする芸術全般や、聖書研究も私にとって大事な「ライフ・ワーク」です。



●論文の読み方・書き方  
a1・a2・c1・c2

私はこの大学で「論文の読み方・書き方」という授業を担当しています。この名称からして皆さんは、何か実用的なこと、役に立つ「テクニック」を教えてくださいの授業と思われるかもしれませんが、でも、そのようなことは2の次、3の次。もっと根本的な「自分の頭で考える」ことを身につける、というのがこの授業の目的です。

## 「自分の頭で考える」？

大学は単なる中学・高校の次に進む「学校」と思っている人も多いでしょう。でも、大学での「学び」は、高校までの「勉強」とは全然違います。では何が？

簡単に言ってしまうと、高校までの勉強は知識を「教えてもらう」ことが中心ですが、大学での学びは知識を活用して自分なりに「考える」ことが中心になります。もちろん、講義で専門的なことを教えてもらうことも大切ですが、それはあくまで前提のお話。学んだ知識を基にでは、あなたはどうか考えるの？が大学で求められることなのです。

## どんなことでも自分の意見を言えればいいの？

では、考えたことなら何でも思いつきでもいいのかといえば、残念ながら、そんなに甘くはありません。友達同士ならいいでしょうけれども、反対の意見を持っている人は全く聞いてくれないでしょう。話を聞いてもらい、納得してもらうためには、自分の意見が説得的であることを相手に伝えなければいけません。そのために必要なのが、客観的な資料・証拠や論理的な思考・表現なのです。論文というものはただ調べたことをまとめたものでも、あるいは自分の意見を一方的に述べただけのものでもありません。

## 論文もコミュニケーション

自分の意見をきちんと相手に聞いてもらえるようにする、ということはコミュニケーションの基本です。コミュニケーションは、社会に出てからも非常に大切なものですから、単なるテクニックで済まされるものではありません。大学で学んだことは役に立つか？ 大学は受身で「教えてもらう」場ではありません。自ら主体的に「学ぶ」場です。役に立つか立たないかと受身で判断するのではなく、自ら役立つように活用するべきです。大切なのは「皆さん自身が」活かせるかどうか。この大学全てを大いに活用して下さい。

大学で学んだことは役に立つ？

受講生のひとこと



「自分の頭で考える。」これこそ講義の命題であり、他の科目のレポートや論文課題でも最も重要なものだと思います。

この講義では“ディベート”やたくさんの“文献集め”そして“読み比べ”を通じて人との違いに自分らしさを見つけていきます。このカリキュラムを意識して受講すれば、きっと自分だけの面白い文章を書けるようになるでしょう。

2010年入学 牧島 弘樹